



## 映画とアコと音楽と ⑥

### 「タンゴ・バー」

「映画とアコと音楽と」というテーマなので、アコーディオンということになりますが、今回紹介の映画は題名からタンゴが中心の映画だということで、バンドネオンが活躍します。バンドネオンもアコーディオンの一種と考えるもらえればと思います。

タンゴ・ミュージカルとも言われているこの映画は、当然アルゼンチン・タンゴ満載の映画です。タイトルバックが終わると、一組の男女によるダンスの映像。ちょっと雰囲気の流れるといったものではなく、しっかり長い時間見せてくれます。タンゴのダンスというと社交ダンスでよく見かけますが、ああいったいわば直線的といった感じのものではなく、身体を密着させ、互いに相手の足の間に自分の足入れてからませるといった、まさに官能的なと言っていい踊りです。こういうダンスが全編を通じて何度も出てきます。あ、世界が違うなと思わせてくれます。

アルゼンチンのブエノスアイレスを舞台に、ピアノ弾き、バンドネオン弾き、歌手の3人のバンドマンを中心にした物語を、ピアノ弾きリカルドが語っていきます。

1970年代後半、アルゼンチンは非民主的な軍事政権の暴圧にさらされ、彼らの音楽、タンゴも自由に思うようには演奏できない状況でした。その政権に反対してバンドネオン弾きアント

ニオはアルゼンチンを離れる決心をします。残る道を選択したのはピアノ弾きリカルドとアントニオの恋人で歌手のエレナ。しかし10年後、カップルになったリカルドとエレナのところにアントニオが戻ってきて、また3人での演奏が再開されます。

物語としては何の変哲もないというか単純極まりないものですが、とにかく最初から最後までタンゴ、タンゴ、タンゴ!の演奏と踊り。もちろんその中で主役級のバンドネオン。そしてリカルドによって語られるタンゴとは何か、タンゴの歴史。この映画でタンゴのいろいろなことをいっぱい知ることができます。ラ・クンパルシータやエル・チョコロなど大変有名な曲も含めて、たくさんの曲が演奏されるので、タンゴ好きにはたまらないでしょう。

マルコス・チューリナ監督作品、リカルド役のラウル・ジュリアは54歳という若さで亡くなりましたが、ほかの作品でエミー賞やゴールデングローブ賞の獲得経験のある名俳優の一人。

〈池田〉

次回予告 (シリーズ最終回)

「エクレール・お菓子放浪記」

執筆:田代和也

次回⑦を持ってシリーズ「映画とアコと音楽と」は終了と致します。